

【たはらサンドアートフェスティバル実施報告書】

2021年8月21日（土）

実施：たはらサンドアート実行委員会

―― イベント概要 ――

- ・ 名称 第3回たはらサンドアートフェスティバル～海と日本プロジェクト2021～
- ・ 日時 2021年8月21日（土） 16時00分～20時00分
- ・ 会場 表浜ほうべの森（田原市谷ノ口公園）
- ・ 概要 砂の彫刻家である保坂俊彦氏のサンドアート作品と田原市内の発達障がい児を含む児童・生徒の竹あかり作品をコラボレーションした展示イベント
- ・ 目的 知的・発達障がい児の居場所づくり【海を表現しよう！】
- ・ 対象 田原市民、近郊の市の市民、
竹あかりワークショップ対象者：知的・発達障がい児を含む市内の児童と保護者
- ・ 主催 たはらサンドアート実行委員会
- ・ 後援 田原市教育委員会
- ・ 協力 ケアカフェたはら市

―― イベント結果 ――

参加者数：250名（竹あかりワークショップ参加者：84名、講師・ステージ出演者など：38名、ボランティアスタッフ：51名、その他来場者：77名）
メディア露出：地元ケーブルテレビ、東愛知新聞、東海日日新聞

―― イベントの様子 ――



【保坂俊彦氏のサンドアート作品と竹あかり】



【トークショー】



【ライブパフォーマンス】



【ボランティアの竹あかり制作】



【竹あかりの制作をサポートする中学生・企業ボランティアさん】



【竹あかり制作後に撮影】



【ダンスステージ】



【キッチンカー】



【砂あそびスペース】



【ヘルプマーク啓蒙活動】



【障がい児が作った竹あかり】



【ボランティアの中学生に趣旨説明】



【市長からご挨拶】



【サンドアートと点灯された竹あかり】



【サンドアーティストの方々とボランティアスタッフの集合写真】

―― 報道 ――

砂で彫刻などを作る「たはらサンドアートフェスティバル」が21日午後4～8時、田原市南神戸町の「表浜ほうべの森」で開かれる。

世界的な大会で受賞を重ねるサンドアーティスト保坂俊彦さんによるサンドアートの制作ライブパフォーマンスのほか、ミニチュメント作品の制作展示、トークショーがある。景品のあるクイズ大会や、キッチンカーの出

サンドアートフェス

21日に田原「表浜ほうべの森」



保坂さんとサンドアート(提供)

店、地元ストリートダンス教室によるキッズダンスのステージも。

ワークショップは竹あかりの制作体験。作った作品はミニチュメントの周りに並べ、午後7時から点灯式をする。ワークショップ参加は締め切っている、一部当日も受け付けるという。

問い合わせは「たはらサンドアート実行委員会事務局」(0531・39・1631)へ。【岸侑輝】

【東愛知新聞 8月15日掲載】

【東海日日新聞に掲載】

社会

差別や偏見のない社会願う

「海」の守護者」が由来上がり、田原市南神戸町の表浜ほうへの森で21日開かれる「たはらサンドアートフェスティバル」で披露される。モニユメントの前に障害のある子どもや障害のない子どもが作った竹灯籠が並べられる予定で、主催者側の「差別や偏見のない社会に」との願いが込められることになる。

地元の砂で制作したモニユメント「海の守護者」が由来上がり、田原市南神戸町の表浜ほうへの森で21日開かれる「たはらサンドアートフェスティバル」で披露される。モニユメントの前に障害のある子どもや障害のない子どもが作った竹灯籠が並べられる予定で、主催者側の「差別や偏見のない社会に」との願いが込められることになる。

海の守護者は高さ約2・5メートル。モチーフにした中世の騎士が右手に剣、左手に盾を持ち、りりしい表情が特徴だ。周りに巻き貝や波をあらわしている。宮城県を拠点に、国内外で活躍する

田原

サンドアートティスト（砂彫彫刻家）の保坂俊彦さん（47）が、ヒラミッド状に砂を固めてスコップやへらで削り、16日から制作を始めていた。

このフェスは、障害を持つ親とその支援者でつくる実行委員会（林智也代表が主催で、今年で3回目となる。障害の子どもが居場所づくりが目的で、参加する子どもたちと一緒にサンドアートを通して交流を深めるのが狙いだ。

当日は午後4時から。市内の小学生らがワークショップで実行委が用意した青竹で灯籠を作り、障害のある子は親と一緒に事前に製作し、持参する。点灯式は



中世の騎士をモチーフにしたモニユメント「海の守護者」と、制作した保坂さん（表浜ほうへの森で）

午後7時の予定。このほか、保坂さんらによるサンドアート制作のパフォーマンスやトークショー、地元の小学生らのダンスがある。キッズカーもお目見えする。

保坂さんは「砂を使って作品ができることを知ってもらえば」と話す。林代表は「イベントを通じて、雨天の場合は内容に変更もある。問い合わせは電話0531(39)1631、メール info@tahaarang.or.jp」

どもに対する理解を深めてもらい、ヘルプマークも知ってもらいたい」と語った。

雨天の場合は内容に変更もある。問い合わせは電話0531(39)1631、メール info@tahaarang.or.jp

【東愛知新聞に掲載】

大型砂像制作など催し多彩

田原でサンドアートフェス 夕暮れ包む竹あかり点灯式も



出前迅速
11:00 営業中 21:00

握る

障がい者対応
AED常設

車 寿司

田原市南神戸町の「表浜ほうへの森」キャンプ場で21日、「たはらサンドアートフェスティバル」があった。



保坂さん制作の砂像「海の守護者」。盾にヘルプマークが入っている。表浜ほうへの森で

サンドアートティスト保坂俊彦さんによる大型砂像「海の守護者」制作ラッシュがあり、盛大な拍手を受けるなど好評だった。田原中学校のボランティアクラブ「たはらランティア」が協力する竹あかりワークショップは大勢の来場者が参加。ハンンドリルを使って大人から子どもまで竹あかりづくりに取り組んだ。午後7時から点灯式があり、夕暮れのキャンプ場にきれいな明かりがともった。



実行委員会の林智也委員長は、新型コロナウイルス禍で障害のある子どもたちとの交流ができなかったことが残念としつつ「ヘルプマークを砂像に入れてもらうなど、多くの人に知ってもらいための活動はできたと思います」と語った。砂像のモニユメントと竹あかりの一部は約1カ月間、キャンプ場に展示される。

――たはらサンドアートフェスティバル 実施レポート――

当日は、雨天予報ではありましたが、イベント終了時まで雨に降られることなく、すべてのイベントの内容を実施することができ、250名もの方々がお越しくださり、皆さまのご協力のおかげで盛況となりました。また、水分補給を随時促すなど熱中症対策と感染症対策を十分にし、トラブルなどもなく無事に一日を過ごすことが出来ました。参加された方から「普段できない工具を使うことができ、いい経験となりました」「いろいろな立場の方、世代の方と関わる場を作っていただき、ありがとうございました」などのお礼の言葉をいただきました。ボランティアの学生からは、「様々なイベントが中止となっているところ、開催してもらったおかげで、楽しかったですし、社会勉強になりました」と感想をいただきました。実行委員会としては、知的・発達障がいの理解を深めるという点においては一步及ばずではあったという反省はありますが、サンドアートを介して海の魅力を発信できたことや、多様な方々が一つの場に集う機会を提供したことで、障がい児を含めた子どもたちの居場所が地域にあることを示すことができたという、達成感を得ることができました。

【オープニング】16:00～

サンドアーティストの保坂氏制作のモニュメント作品をバックにし、オープニングセレモニーを行いました。弊団体の代表である林の挨拶やイベント内容についての案内だけでなく、ケアカフェたはら市様の方より熱中症対策や感染症拡大防止対策についての指導をしていただきました。

なお、ボランティアの方々には、イベント開始前に集ってもらい、スケジュールと役割分担の確認と、感染症対策についてのマニュアルを配布し、感染症対策についての徹底を促しました。

【竹あかりワークショップ】16:30～18:00

参加者に時間を分けて案内し、密にならないよう配慮して実施しました。田原中学校のボランティア団体「たはらボランティア」の生徒と地元企業のボランティアの方々に、マスクや手袋の着用、机や備品などの消毒などの感染症対策をしながら、子どもたちの制作サポートに当たっていただきました。参加者は指定の時間に集まり、デザインの用紙が貼ってある竹を選び、大きい穴から順に穴を開けていきました。子どもたちは、はじめてドリル（インパクト）を使うドキドキ感、穴を全部開けるまでの大変さを味わう経験となりました。また、普段は関わる機会が少ない中学生や地元企業のボランティアの方など多様な人と関わる機会となりました。ボランティアの方々にとっては、自分の役割をこなすだけでなく、その場の状況に臨機応変に対応しつつ、多様な方々と協力しながら竹あかりワークショップという一つの場を運営するという体験となりました。



【トークショー・ライブパフォーマンス】16:10～

サンドアーティストの保坂氏のトークショーでは、今回の作品に込められた想いやサンドアートの魅力、そして、ここでしか聞けないサンドアーティスト事情など、保坂先生にお話をいただきました。

トークショーの傍では、保坂氏のお弟子さんたちによるサンドアート制作のライブパフォーマンスを同時並行で実施しました。

知的・発達障がいなど外見ではわからない配慮を必要とされている方が援助を得やすくなるよう周りに知らせるためのヘルプマークの象徴である十



字とハートのマークを作品の中に取り入れたことや、砂という海の自然の可能性について話して下さった後、お弟子さんたちの作品を仕上げる姿を通してサンドアートの魅力を伝えてくださいました。

【その他の会場の催し】

キッチンカーでの物販、地元のキッズダンススクール「●●●」のダンスショー、景品付きのクイズ大会と、DJブースを設けてBGMを流すなど、来場者の方が楽しめる催しを実施しました。

クイズ大会は、田原市に関連した内容や弊団体に関する内容を出題することで、ふるさとについての新たな気づきや理解につながる、そして、知的・発達障がいについての活動を知る機会としました。また、来場者全員で一緒に楽しむことで、子どもたちの居場所が地域にあることを感じてもらう場にもなりました。

【点灯式・エンディング】19：00～20：00

「いよいよ点灯だ！」という竹あかりとライトを持った子どもたちの期待感の中、点灯式がスタートしました。イベントの応援に駆けつけてくださった田原市市長 山下政良様、衆議院議員 根本幸典様、衆議院議員 関健一郎様、県議会議員 山本ひろし様から一言ずついただき、その後、視覚障害者団体さくらんぼの柳田知可さんが地域の明るい未来を願って歌ってくださいました。

竹あかりの点灯では、サンドアートのモニュメント像の周りに、竹あかりを並べて点灯しました。

まず、地元企業の方や弊団体のスタッフが制作した竹あかりと障がい児の子たちが制作した竹あかりを点灯し、その後、イベント当日に作成した子どもたちが、自分で制作した竹あかりをセットして点灯しました。照らされた竹あかりの光の輝きに自然と拍手が起きました。サンドアートの作品、障がい児の子たちの作品、そして、地元の子どもの作品がコラボレーションし、一つの作品を完成させることで、海という地元の自然や多様な人たちが支え合っていることに意識を向けるきっかけの機会としました。

最後に、今回のイベントについての想いを改めて代表から伝え、じゃんけんぽん大会で楽しく締めくくりました。

